

# 東北復興日記

89

二〇一四年四月四日。

参議院議員会館に全国から高校生百人が集結し、「東北高校生未来会議」が催されました。私は、主催者である都内の高校生たちのサポートに当たりました。そもそもこの会議の発端はと言えば、私の学習塾の教え子である高校生の一言でした。

一般社団法人  
リビジョン代表理事  
齋木陽平さん



## 高校生ができること

「被災地の課題はまだまだ山積みなのに、自分の身の回りにいる人たちの無関心。それがもどかしい」と言うのです。その

「被災地の課題はまだまだ山積みなのに、自分の身の回りにいる人たちの無関心。それがもどかしい」と言うのです。その

「被災地の課題はまだまだ山積みなのに、自分の身の回りにいる人たちの無関心。それがもどかしい」と言うのです。その

「被災地の課題はまだまだ山積みなのに、自分の身の回りにいる人たちの無関心。それがもどかしい」と言うのです。その

「被災地の課題はまだまだ山積みなのに、自分の身の回りにいる人たちの無関心。それがもどかしい」と言うのです。その

にするこの提案でした。被災地の現場で「生の課題」をより多くの人に体感してもらうことが重要だという会の趣旨にも呼応する提言に、会場から拍手がわきました。来春の第二回東北高校生未来会議では、今回の提案の進展状況も報告される計画です。まずは被災地の声を被災地の人から直接聞く。そういう場を継続して設けるべく奮闘の日々は続きます。

この連載は、東京のNPO法人「女子教育奨励会」と、被災地の女性たちが協力して復興に取り組む「結プロジェクト」の協力を得て、掲載しています。